

## 環境の再生に向けた除染に関する国際シンポジウムの開催について

平成23年10月11日  
原子力被災者生活支援チーム

### 1. 趣旨

放射性物質で汚染された土壌等の除染に関する過去の経験やベストプラクティスの共有を図ることにより、地域における除染計画設定や除染活動の効果的な実施に資することを目的とし、国際機関の協力を得て、除染に関する国際シンポジウムを開催する。

### 2. 開催概要

(1) 日 時：平成23年10月16日（日）10：00～（9：00受付開始）

(2) 場 所：パルセいいざか（福島県福島市飯坂町字筑前27番地の1）

<http://www.paruse.jp/>

(3) 主催等

○主 催：環境省、内閣府原子力被災者生活支援チーム

○協 賛：国際原子力機関（IAEA）、経済協力開発機構原子力機関（OECD/NEA）

○後 援：（独）日本原子力研究開発機構、（独）原子力安全基盤機構

### 3. プログラム

#### －開 会

○細野豪志 環境大臣（原子力被災者生活支援チーム長）

○佐藤雄平 福島県知事

○Mr. Luis Echavarri OECD/NEA 事務局長

○天野之弥 IAEA 事務局長（ビデオメッセージ）

#### －基調講演

○森谷賢 環境省福島除染推進チーム長：我が国の除染への取り組み

#### －セッション1：国際機関等における取り組み

○丹羽太貫（ICRP 国内委員会）：長期汚染地域での居住についての ICRP の基本的考え方 ICRP Pub. 103 から Pub. 11 へ

○Mr. Volodymyr Berkovskyy（IAEA）：国際安全基準：公衆及び環境の防護

○Ms. Ann McGarry（CRPPH）：事故後の復旧における「利害関係者の関与」について

#### －セッション2：諸外国における除染作業の先行事例

○Ms. Nataliya Shandala, FMBC<ロシア> 防護対策及び基準の明確化

○大西康夫, PNNL<米国> 環境汚染の除染実例と環境除染総合戦略プランニング

○Mr. Carlos Sancho, CIEMAT<スペイン> 「パロマレス米軍機墜落事故」事故から再生計画まで

○Ms. Tarja K. Ikaheimonen, STUK<フィンランド> チェルノブイリ事故と降下物による汚染でのフィンランドの経験と緊急時対応措置

○Mr. Jean-Luc Lachaume, ASN <フランス> 事故後管理 CODIRPA の最初の教訓

ーセッション3：ふるさと再生に向けた取組み

- 日本原子力研究開発機構理事 戸谷一夫：日本原子力研究開発機構による福島県における除染への取組について
- 農林水産省 中谷誠：農地土壌の放射性物質除去技術について
- 伊達市長 仁志田昇司：ふるさと再生に向けた取組み

ーセッション4：パネルディスカッション（除染の今後の取組に向けて）

【座長】石樽 顕吉 東京大学名誉教授

- ・ Mr. Volodymyr Berkovskyy, IAEA
- ・ Ms. Nataliya Shandala, FMBC（ロシア）
- ・ 大西康夫, PNNL（米国）
- ・ Ms. Tarja K. Ikaheimonen, STUK（フィンランド）
- ・ 石田順一郎 日本原子力研究開発機構 福島環境支援事務所長
- ・ 大村卓 環境省水・大気環境局大気生活環境室長
- ・ Mr. Jean-Luc Lachaume, ASN（フランス）
- ・ 茶山秀一（原子力被災者生活支援チーム）

<会場からの質疑応答>

ー閉 会

原子力被災者生活支援チーム事務局長：松下忠洋経済産業副大臣